

試合観戦者の観戦後行動に関する研究
—Jリーグ試合開催が地域へ与える影響 (2)—

会員種別 ○小久保 諭*
会員種別 梶島 邦江**

1. 研究の目的

さいたま市には、Jリーグクラブが2つ存在しているため、毎週どちらかのクラブのホームゲーム（以下、試合）が行われる。これは市民にエンターテイメントを提供するイベントであるが、試合開催の影響はスタジアムに留まらず、地域にも影響をもたらしていると考えられる。試合開催が地域へ与える影響に関する研究は、試合開催の経済効果を測定したものはあるが、どこで何をしたかという行動科学的な研究は行われていない。そこで試合の開催が地域へもたらす影響を明らかにするために試合観戦後の活動の内容、活動の場から考察を行う。調査は第1報で用いたアンケート調査と同一である。試合観戦後行動についての調査項目は、スタジアムを出てから自宅へ着くまでの移動手段と所要時間、交通費、帰宅途中に活動を行った人については活動の内容、場所、滞在時間、使用金額、同伴者についてである。

2. 試合観戦後の行動の概要

試合観戦後に真直ぐ帰宅する人は41.7%で58.3%は何らかの活動を行っている。行う活動でもっとも多いのが外食で30.2%、ついで買い物の15.2%が多い。外食と買い物を両方行っている人を合わせると約5割に相当する(図1)。

活動に要した費用は、活動者平均では2,763円となり、活動別では外食が1,909円であるのに対して買い物は3,214円と消費金額が大きい。消費金額の分布を見ると買い物では、1,000円台がもっとも多く金額が上がるにつれて遞減している。しかし外食では、1,000円台と3,000~4,999円の2つのピークが認められる(図2)。

活動に要した時間の行為者平均は89.1分となる。活動別では、外食が92.9分と買い物の29.8分の約3倍である。活動時間の分布は時間が長くなるにつれて遞減する傾向にある。特に買い物は30分以下がもっとも多く時間の増加につれて急激に減少する。それに対して外食は、30~60分がもっとも多く、時間が長くなるにつれて緩やかに減少している(図3)。

居住地別に行動をみると、埼玉県内の居住者で帰宅をする人の割合が高く、さいたま市民でその傾向が強く表れている。さいたま市民は帰宅する人の割合が高いが、その半面買い物をする人の割合も高い。埼玉県外に居住する人は、帰宅する人の割合が低く外食をする割合が高

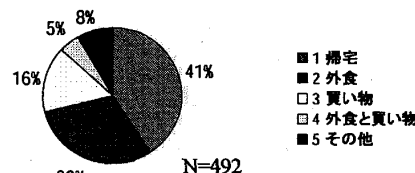


図1 観戦後の行動

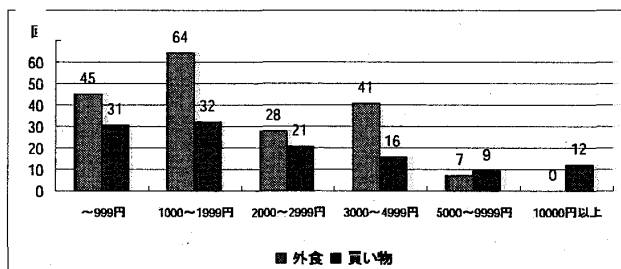


図2 活動費用の分布

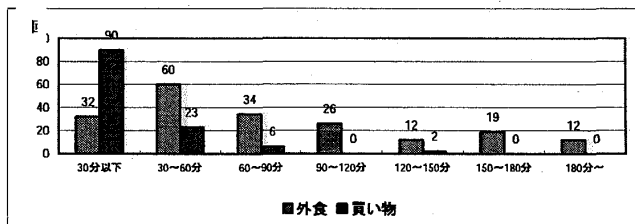


図3 活動時間の分布

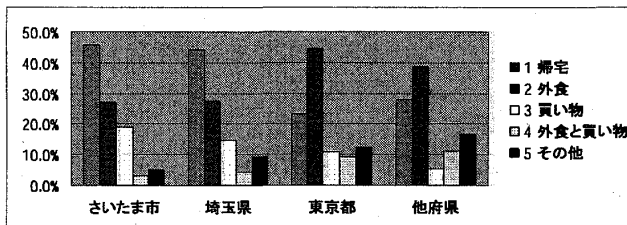


図4 地域による活動内容の差異

い。その傾向は東京都で強く表れている(図4)。

4. 観戦後行動が行われる場所について

①観戦後行動の出現する場所(注) 観戦後の活動は328回確認できた。活動の多くはスタジアムがあるさいたま市とその隣接する自治体で行なわれており、活動の約半数がさいたま市内で行なわれている。その中でも特に大宮区、浦和区で活動が多い。埼玉県全体では8割を超える。さいたま市以外では東川口駅や北越谷駅といったスタジアムへの経由地点を含む自治体で活動数が多い(図

5)。活動数の多い自治体は帰宅の経由地となりうる場所であって帰宅途中に外食や買い物をしている場合が多い。

②大宮における活動 大宮駅周辺で行われた活動は 42 回、行為者数 36 人である。活動費用の平均は外食 1,980 円、買い物 3,967 円である。買い物の金額が全体よりも多いのは百貨店の存在が影響している。活動時間の平均は外食 75.6 分、買い物 45.6 分である。活動が行われている場所は、活動の半数が大宮駅へ集中している。その中でも駅中にあるエキュート大宮の利用が多い。残りの半数も駅周辺のそごうなどの大型施設で行われる傾向が強い (図 6)。

③浦和における活動 浦和駅周辺で行われた活動は 50 回、行為者数は 44 人である。活動費用の平均は外食 2,680 円、買い物 3,720 円である。活動時間の平均は外食 122.1 分、買い物 25.5 分である。浦和での活動費用は外食、買い物共に全体より大きい。特に外食の値が費用、時間ともに全体を上回っていることが特徴的である。また浦和においても百貨店の伊勢丹の存在が平均金額の高さに影響を与えている。活動が行われる場所は、駅前の伊勢丹からイトーヨーカドーにかけての地区に集中している (図 7)。活動が一番多く行われている場所は、伊勢丹で買い物を中心に行われている。それに対して伊勢丹の裏の地区では外食が活動の中心となっている。この地区は飲食店が多く集まっている場所である。さらに浦和レッズサポーター、ファンが集まる店があり試合後に観戦者が集まる拠点の様なきをしている。しかし活動のほとんどは西口で行われており試合観戦者が集まる範囲は限られている。

5. まとめ

試合観戦後に帰宅までに外食を始めとしてなんらかの活動を行っている人が 6 割弱いる。活動はスタジアムがあるさいたま市とその隣接する自治体で多く、その場所は主に帰宅の経由地である。それぞれのクラブのホームタウンの中心地である大宮と浦和では特に多くの活動が行われている。大宮での活動は駅を中心に大型施設に吸収されてしまっていることから、試合開催の影響を街へ波及させるには試合観戦者が集まり、語り合えるような拠点を設ける必要がある。浦和での活動の場合でも大型施設に活動が集まる傾向が確認できるが、街での活動も多く行われている。そこには、試合観戦者の拠点となる店舗の存在が影響している。しかしその範囲は限られているためより広い範囲に試合開催の影響を波及させるた

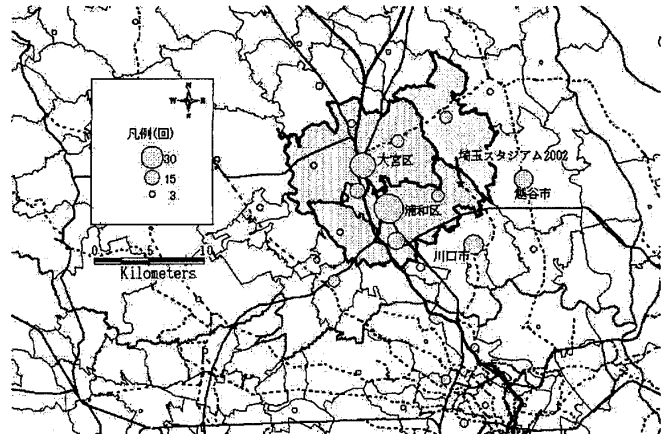


図5 観戦後行動の出現する場所 (自治体別に集計)

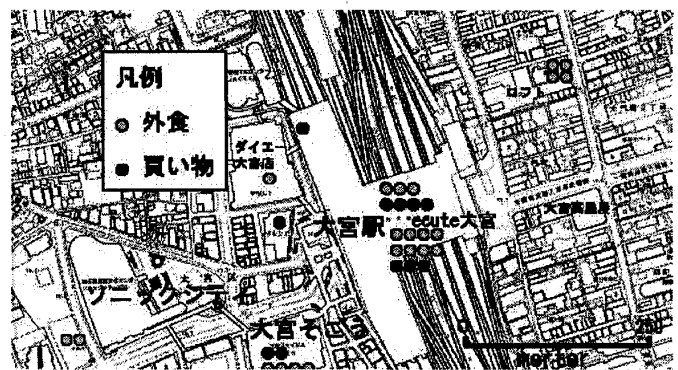


図6 大宮駅周辺における活動場所

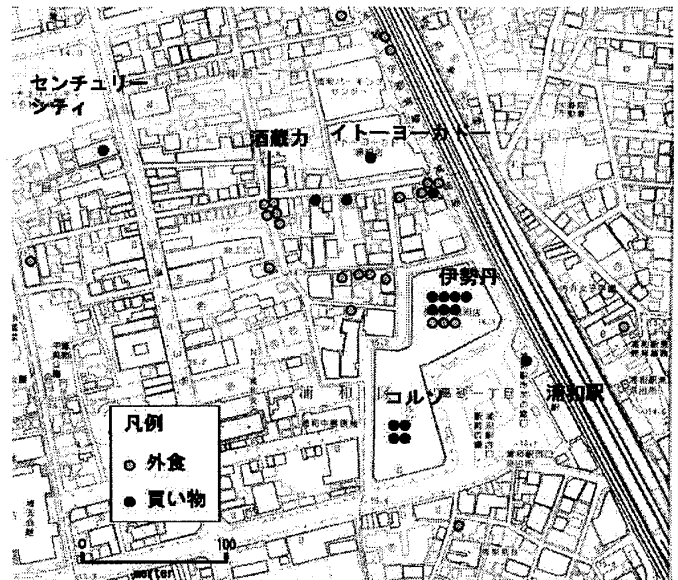


図7 浦和駅周辺における活動場所

めに新たな拠点を設けることが考えられる。

注：調査において活動場所の記入方法は回答者の任意としたために場所の特定が困難であったので、自治体を単位として場所を整理集計した。

*埼玉大学教養学部梶島研究室 研究員

**埼玉大学教養学部 教授・工博

* Researcher.Kajisima Laboratory, Faculty of Liberal Arts,saitama University.

** Prof.Faculty of Liberal Arts,Saitama University.,Dr Eng.